

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29 年 2 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500109		
法人名	社会福祉法人政樹会		
事業所名	グループホーム 呉ベタニアホーム長迫		
所在地	広島県呉市長迫町10-3 (電話) 0823-23-2013		
自己評価作成日	平成29年2月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500109-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県広島市安佐北区口田南4-46-9
訪問調査日	平成29年2月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

社会福祉法人政樹会は、1997年9月呉市及び近郊のキリスト教会が高齢者のために、キリストの愛で仕えたいと言う祈りとミッションを持って設立され、2007年4月には呉市長迫の地に私共小規模多機能ホームを設立する事ができました。様々な困難がありましたが、その時々で最善の道が開かれ、現在に至っております。これからも、「ご高齢者の締めくくりに、職員を大切に、愛された職員はご利用者を大切にする」、その様なケアをしていきたいと願っております。ベタニアに関わった者全てが「ベタニアに出会えてよかったと思える」出会いの場所になれば幸いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム呉ベタニアホーム長迫は、呉市内の東側の高台の住宅街に位置し、近隣には公園もあり散歩コースになっている。施設は2階建ての建物で、1階には法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、小規模多機能の利用者との交流や行事等も、協力し合いながら充実した日々が送れるよう力を注いでいる。職員は、利用者の目線で向き合い、利用者同士のつながりや協力関係を大事にしつつ、過剰な介護にならないようさりげない声かけ、見守りに徹している。職員は、明るく生き活きと地域の方や利用者・家族・職員間のコミュニケーションを大切にしながら、利用者が穏やかに、笑顔で安心して過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。緊急や重度化の対応は医療連携が整備され、家族と話し合い希望に沿って看取り介護も行っている。職員が一丸となり、なお一層利用者へのサービス向上を目指し、取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	高齢者が人生の締めくくりにベタニアに出会えてよかったと思われるケアをする事。職員も専門性を発揮し、ベタニアで働けて良かったと思えるような職場にしていける事を目指している。内部研修会等で理念を共有し、どの様にその理念を現場で活かしていくか話し合っている。	「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」を理念として掲げ、事務所内に掲示すると共に名札の裏側に記載し、常に理念を共有している。又、ミーティング時に話し合い、全職員でその理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	積極的に地域の方との挨拶を敢行し、地域に溶け込むようにしている。また、地域の方に花や着なくなった衣類やオムツ、ぞうきん、タオル等を頂いている。地域の方のダンスや民謡等の訪問や、実習等の学生の勉強の場ともなっている。又、入居者の家族の小学生が授業の一環で、入居者の戦争体験について聞き取り学習をしたり、同法人内で行われる、幼稚園との交流に参加したりと、地域や学校等との交流がある。	利用者は近隣の公園に散歩に出かけた折は、近隣の住民と挨拶を交わしている。地域の老人会から雑巾を頂いたり、近所の方から紙おむつを寄付されたりと交流している。地域の方の慰問で、フラダンスや舞踊の披露があり利用者と交流している。国際大学の学生の実習等の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者に必要であるが、地域の高齢者にも必要とされたので、坂道の道路に手すりを付けてもらった。また、玄関前にいつでも見学や相談が出来る様にポスターを掲示して、訪問者が施設に入りやすい環境を整えようと努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回定期的に運営推進会議を行い、利用者のサービス利用状況等を報告している。参加者からの質問や意見は、サービスに反映させ、サービス向上に努めている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、民生委員・自治会長・地域包括支援センター職員・家族代表地域代表・市福祉保健課職員の出席が有り、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っている。会議では事業所の状況報告や行事報告をしている。感染対策等事業所の取り組み等を報告し、意見交換をしたり話し合い結果を運営に反映させている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	質問・報告等、機会があれば市町担当者に連絡又は出頭し、協力関係を築いている。	市担当者が運営推進会議に出席している。出席時に情報交換したり電話で問い合わせしたり、提出書類等手続きでの疑問点を聞くなど、市担当者に事業所の実情を伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修を設けたり、職員同士の声掛けを行うようにしている。玄関の施錠については、夜間は施錠している。	会議や勉強会の中で身体拘束において禁止の対象となる具体的な行為等、勉強会を通し理解を深めるようにしている。また、外部研修にも参加し、普段の支援で起こりえる身体拘束を振り返る機会にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修において、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。また施設玄関に制度に関する説明文書を掲示している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修において、制度に関する学習の機会を設けている。また施設玄関に制度に関する説明文書を掲示している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約の際は、利用者や家族等の不安・疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し玄関前にも閲覧できるようにしている。また、玄関前にも質問箱を設置し、自由に意見を述べてもらえるようにしている。年に2回、家族懇談会を開き、自由に意見を出し合える場を設けている。	年2回の家族会(納涼祭・クリスマス会)や家族が面会に来た時に本人の現状や身体の様子、普段の施設内での様子等を伝えている。この時に要望や意向も合わせて伺っている。面会に来られない人には居室担当者が家族に電話をして、近況報告や本人の普段の状態を話すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的ミーティングを開き、職員の意見を聞く機会を設けている。また、提案書を持って職員より提案する機会を設けている。	管理者及び職員はいつでも気軽に話し合える雰囲気にある。ケア日報を数値化し年間評価をしている。定期的にミーティングを開き、行事の改善や介護方法について意見やアイデアが出され、その後の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人相談を年2回以上して、職員個人が抱えている悩みを聞く機会を設けている。また、目標管理シートを使用することで、職員個人の目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来る様にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修では、初任者・中級者と段階を踏んでの研修を行い、外部の研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修や法人内別事業所と共同で研究発表を行ったり、外部の施設職員を研修で受け入れたり等でサービスの質を向上させるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけ多くコミュニケーションをとったり、新規利用者の情報を職員間で確認している。契約前には自宅に伺い、話の場を作り、利用者が話しやすい環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前は家族からも情報収集を行い、入居後の生活に反映できるようにしている。また、気になる点等は報告し、早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	同法人居宅や小規模のケアマネジャーとともに相談しながら、本当に必要なサービスを提供できるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりに無理の無い範囲でできる事はして頂いている。また、職員も一緒に作業しながら、対話の時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の施設での近況を細かく家族に伝える様に心掛けている。家族にも施設に来ていただく等して、話し合う機会を持っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の事情に応じて、ご家族や友人に積極的に訪問して頂き、時には家族の家や家族との外食等、なじみの関係が途切れないようにしている。	併設されている小規模多機能事業所の利用者と、日頃から交流が図られるよう支援している。友人・知人の面会があったり、家族とドライブや外食に出かけている。近隣の店に買い物に行く等、馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操・レク等で小規模の利用者とも交流する機会を持っている。利用者同士の関係がスムーズに形成されるよう、会議等で職員の意見を集め、検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、ご家族の相談にのる等して経過をフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いをくみ取れるよう努めている。また、家族が来られた時は、日常生活ぶりをお話し、意見を伺っている。	入浴時や日常の何気ない会話の中でよく聞き取るよう心がけている。思いや意向の表現が困難な利用者については、家族からの情報やこれまでの経歴なども参考に話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、インフォメーションシートにまとめて、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌やケースファイルの日々の記録を中心に、朝礼・夕礼その他口頭での申し送り等を実施している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアプラン会議での本人の声を尊重したケアや課題について検討し、家族にも来所時にその内容について話し合い、助言を頂いている。ケアプラン会議前には、事務所ホワイトボードに職員の意見が書ける仕組みを取り、会議に参加できない職員の意見も汲み取る事が出来る。	介護計画は利用者・家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握すると共に、計画作成担当者を中心に職員で話し合い作成している。家族来訪時に介護計画を説明し同意を得ている。利用者の日々の様子を記録して、毎月モニタリング・カンファレンスを行い見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は現状に即した介護計画に見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録・ケースファイル・質問内容記入表・家族連絡ノート等に細かく記入し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	小規模多機能ホームと共同しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者の友人や近所の方が面会に来られたり、教会の信者さんが入居者を礼拝に連れて行って下さったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	看護師による判断で、かかりつけ医の受診や、月に2～3回の往診を行っている。また、かかりつけ医との連絡を密にしている。	本人及び家族の希望によるかかりつけ医への受診としているが、利用者全員が協力医療機関での受診となっている。月2回の往診があるほか、夜間対応もあり、個別の受診には職員が付き添っている。協力医療機関以外の皮膚科・耳鼻科・整形等には家族の協力を得て受診の支援をしている。	

グループホーム 呉ベタニアホーム長迫

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	非常勤で看護師を置き、医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の受け入れ体制を取ったり、病院とのコーディネートを行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合は、段階的に家族、利用者の意向を聞きながら、事業所のできる事を説明し、対応しています。	重度化や終末期に向けた方針を、利用者や家族に説明し同意を得ている。状態の変化に応じて家族・医師・職員と充分検討しながら、チームとして支援出来るように取り組んでいる。昨年3件の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている。	近隣に協力の呼びかけと、消防署と連携を取り、防災訓練を定期的に行っている。また、呉警察署と災害時の事について入居者・職員避難先等について確認を行った。	日中・夜間を想定して年2回行い、内1回は消防署の協力のもと避難訓練を実施している。避難訓練の際にベルが鳴るので近隣の方にお知らせをしている。消防署の方から心肺蘇生のやり方の研修を受けている。	地域の方やボランティアに、事業所の行事・イベントに参加を呼びかけ、日常的な交流から避難訓練時の応援や利用者の見守り等役割を具体的に示し、協力関係に繋がる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いは慎重に行っている。利用者への声掛けの配慮、入浴時や排泄時の羞恥心に対する配慮も心掛けている。	お一人おひとりの人格を尊重し、日常のケアにおいて、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をするように研修を行っている。言葉使いはゆっくり丁寧にお一人おひとりの人格を尊重し、排便時や排尿時・入浴時・入眠時等はプライバシーを損ねない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	訪室してマンツーマンで話を聞いたり、繰り返し説明をするなど一人ひとりに合わせた対応をし、満足の行く日常生活が送れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームとしての決まりごとはあるが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、利用者のペースに合わせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った入居者様の好みの服装をして頂き、また希望者様には訪問美容を利用して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	簡単な食事の準備は手伝っていただき、食事時も職員と一緒に食事をして楽しんで頂いている。また、利用者の体型に合わせた椅子に座っていただき、食事が食べ易いよう工夫している。	職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。利用者は能力に応じて、米とぎ・野菜の下ごしらえ・豆のすじ取り・お盆拭き・配膳・下膳等、役割の中で積極的にやっている。又、近隣のカフェごはんハレルヤに外食に出掛けている。	食事をより楽しんで頂く為にお好み焼きの出前を頼んだり、回転寿司に出かけたりと色々試される事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養管理や、食事量や水分摂取量がチェックできる体制をとっている。また、夜間のトイレ後の飲水には、フロアにペットボトルのお茶を置き、職員がお茶をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行っており、出来る限りご自分で頂いている。義歯のある方は外して口腔ケアを行っていただき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中・夜間の排泄状況を見ながら、トイレの声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄できる様に支援している。また、一人ひとりの表情や動作を観察し、尿意・便意のサインに気付く様気を配っている。	排泄チェック表により、お一人おひとりの排泄パターンを把握して、案内する時間を少し変えたり、声かけの量を増やしたり、仕草や表情から早めに誘導する等、不安が軽減され、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取量の記録を見て、こまめに水分摂取を心掛けている。また、日曜以外毎日1階に降りて、体操やレクリエーションを行い身体を動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には午後からの入浴としている。入浴の順番は、利用者の希望に合わせている。	入浴は週2回で決まっているが、利用者の希望状況に応じて入浴できるように支援している。体調不良や入浴を拒む利用者には、タイミングを見計らいながら入浴に誘ったり、時間帯や入浴日を変える等、無理なく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースを把握し、入居者の様子を見て休息をすすめるなどを行っている。また、室温や湿度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が中心となり、情報共有している。また、誤薬の無いように、職員2名でチェックを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除・洗濯等はできるだけ自分で行っていただき、また洗濯干しやお盆拭き、ティータイムのメニュー聞き等の個人の役割も持って頂くようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の体調や天候等を考慮して、職員とマンツーマンで外出し、希望に応えられるようにしている。	天気の良い日や利用者の体調を考慮しながら、近所の公園に散歩に出かけられるように支援している。利用者の希望を聞きながら、アジサイ・お花見・つつじの見学にドライブに出かけている。又、近隣のスーパーにお菓子を買いに出かけたりカフェに出かけている。	施設近隣に公園があるが、道路の傾斜がきつく危険な為、散歩に出かける機会が少ない。又、地域行事・小学校や保育園等の運動会・文化祭・敬老会等の行事に参加する機会もなく外出する機会が少ないので外出の機会を増やされる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	能力に応じた対応を取っている。お金を所持している方は、紛失した場合の家族の了承を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば自由に電話できるようにしており、携帯電話を持ち、自由に家族に電話をされている方もいる。また年賀状や暑中見舞い等をご家族に送っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設らしさを取り除き、建物が小さい町を想定して建てられており、設計段階から工夫している。また、入居者様に壁画を作っていたり、季節に応じた空間づくりを行っている。	リビング兼食堂は十分な採光が取り入れられており、職員は利用者が居心地よく過ごせるように湿度・温度等調節したり、音楽やテレビの音量にも気を配っている。居間・廊下には利用者と職員と一緒に製作した作品や季節の花が飾られており、利用者が季節を感じながら穏やかに過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	強化ガラスで1階が見下ろせる井戸型のテーブルを囲む、くつろぎのスペースを設けている。また、窓辺にイスを設置し、外の景色を楽しんだり、日光浴をされる入居者様もおられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室によって大きさや形が違い、また、本人の馴染みの家具等を持ち込んで過ごして頂いている。	入居の際、本人や家族に馴染みの物を持ち込まれるように伝えている。利用者はテレビ・筆筒等、使い慣れた物を持ち込み、家族の写真・手作り作品・飾り物等飾られ、思い思いに寛ぎながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個別に合ったトイレを利用して頂いたり、植物を植えて水をやる等、自分でできる事はやっていただくように、個別の対応を行っている。また、歩行器を使用して頂くことで、安全で自立した生活を送って頂いている方もいる。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 呉ベタニアホーム長迫

作成日 平成 29 年 3 月 9 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出の機会を増やす	外出レク等を企画・実施し、季節を感じ、生活に喜びを感じて頂く。	・外出の機会を増やす事について、チーム目標として取り組み、企画、実施する。 ・家族、友人等に協力頂き、家族と外出する機会を持つ	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。